

日常生活自立段階：ADL-H (Activities of Daily Living Self-Performance Hierarchy Scale)

目的：

ADLの機能障害のプロセスをもとに設定された7段階の尺度。この段階が変化した場合、利用者に有意な状況変化(改善・悪化)が起こったと解釈することができる。

指標の範囲：

7段階 (0[自立]—6[全面依存])

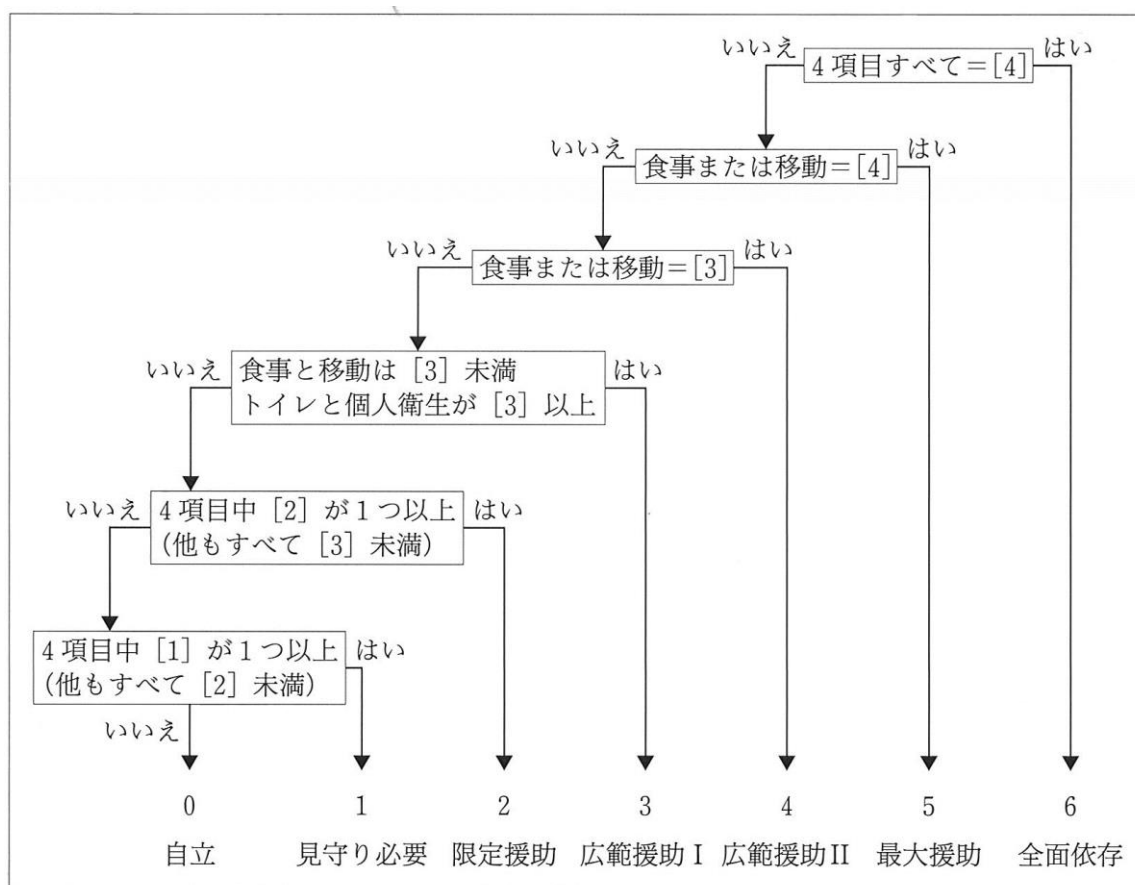
項目：

G2b 個人衛生 **G2f** 移動 **G2h** トイレの使用 **G2j** 食事

選択肢：

0 自立 1 準備の援助のみ 2 見守り 3 限定的な援助
4 広範囲な援助 5 最大限の援助 6 全面依存 8 この動作はなかった

算出方法：



Morris JN, Fries BE, Morris SA. Scaling ADLs within the MDS. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 1999; 54(11): M546-53

認知機能尺度：CPS(Cognitive Performance Scale)

目的：

認知機能の評価を行う 7 段階の指標である。この 7 段階は代表的な認知機能の尺度である MMSE(Mini-Mental State Examination)の平均得点と高い相関がある。

指標の範囲：

7 段階：0 (障害なし)–6 (最重度の障害がある)

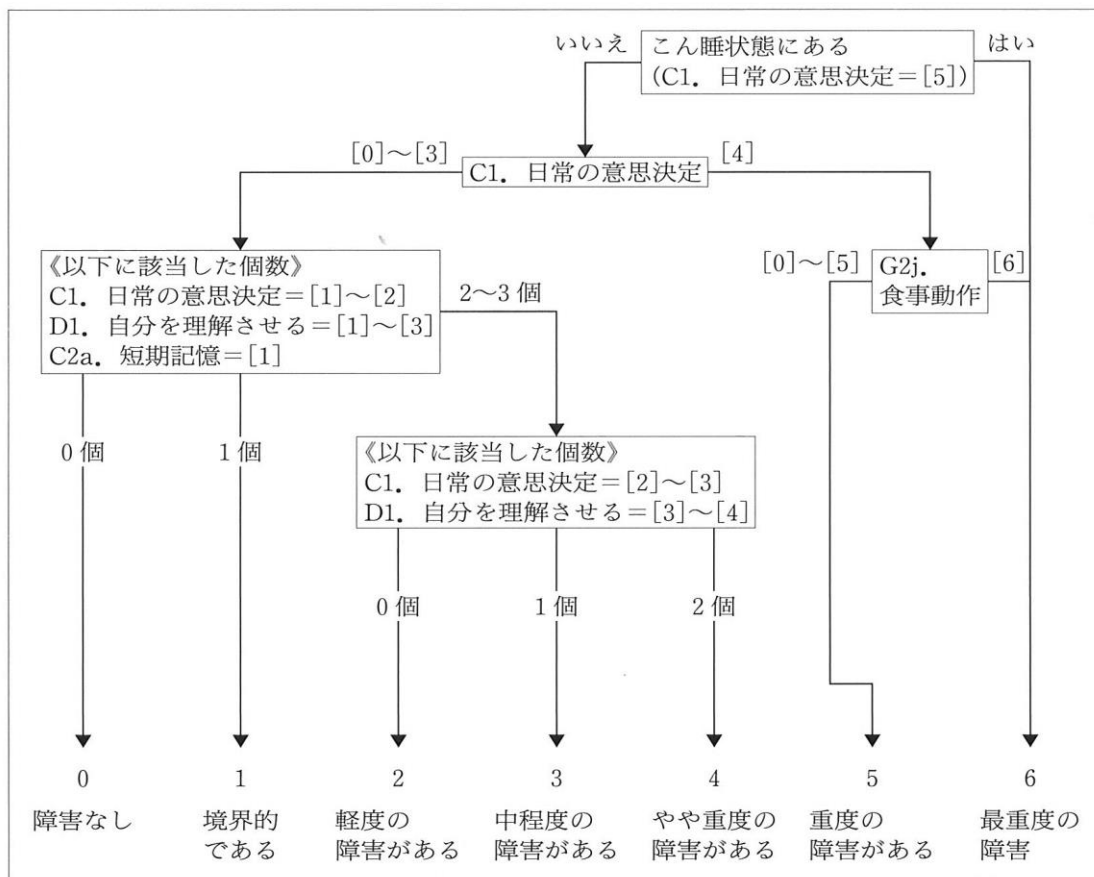
項目：

C1 日常の意思決定を行うための認知能力 ([0]~[5])

D1 自分を理解させることができる ([0]~[4])

C2a 短期記憶 ([0]~[1]) **G2j** 食事 ([0]~[6]. [8])

算出方法：



Morris JN, Fries BE, Mehr DR et al. MDS Cognitive Performance Scale Journal of Gerontology 1994; 49(3): M174-182

うつ評価尺度：DRS (Depression Rating Scale)

目的：

うつの評価を気分に関する7つのアセスメント項目から算出する指標。3点以上の場合、うつに関する問題を抱えている可能性がある。

得点の範囲：

0 — 14 点

項目：

- E1a** 否定的なことをいう
- E1b** 自分や他者に対する継続した怒り
- E1c** 非現実な恐れがあることを思わせる非言語を含む表現
- E1d** 繰り返し体の不調を訴える
- E1e** たびたび不安、心配ごとを訴える
- E1f** 悲しみ、苦悩、心配した表情
- E1g** 泣く、涙もろい

選択肢：

- 0 ない 1 あるが、過去3日間には見られていない
- 2 過去3日間のうち1~2日に見られた 3 過去3日間毎日見られた

算出方法：

選択肢をスコア用に換算…0→[0] 1・2→[1] 3→[2]

計算式…E1a+E1b+E1c+E1d+E1e+E1f+E1g = 0~14

Burrows AB, Morris JN, Simon SE, Hirdes JP, Phillips C. Development of a minimum data set based depression rating scale for use in nursing homes. Age Ageing 2000 Mar; 29(2): 165-72
Journal of Gerontology 1994; 49(3): M174-182